

<無痛分娩(硬膜外麻酔併用分娩)を希望される方へ>

2022/12/07 更新

当院では2022年11月1日より、ご希望のある方に**予約制**で**無痛分娩**を実施しております。妊娠39週0日を目安に陣痛が来る前に入院し、麻酔の準備をしてから分娩誘発を行います。ただし、各出産予定月に人数を限定しており、ご希望に添えないこともあります。また、予定より早く陣痛が来た場合や、破水した場合、夜間・休日などの時間外には対応しておりません。

<無痛分娩(硬膜外麻酔併用分娩)とは>

無痛分娩とは、麻酔薬を使い、陣痛の痛みを和らげ出産する方法です。

当院では、麻酔科医による**硬膜外麻酔**という背中からチューブ(硬膜外カテーテル)を入れて麻酔薬を注入する、最も一般的な方法で行っています。24時間助産師・産婦人科医が待機しており、分娩対応をしています。

しかし、陣痛の痛みが和らいでいる分、十分に「いきむ」ことができない為、出産までの時間が通常より長くなる可能性があります。なお、帝王切開術に関しては自然分娩と頻度の差はないと言われています。

一般的なご質問については、下記のHPをご参照ください。

[『無痛分娩のQ&A』 日本産科麻酔学会 HP](#)

<当院の無痛分娩について>

ご希望の方は妊娠32週までに**自費検査(2万円)**を受けていただき**麻酔科外来**で実施可能かを判断して頂きます。産婦人科と麻酔科の説明をお聞きの上、御理解頂けましたら同意書提出と共に**無痛分娩管理料(12万円)の事前納入**をしていただきます。尚、投薬の有無にかかわらず、**硬膜外カテーテルを挿入した時点で返金不可**としております。入院しても有効な陣痛が得られず分娩に至らないことがあります。その場合も入院費用や無痛分娩管理料が発生します事をご留意ください。

<分娩誘発とは>

陣痛が来る前に入院する為、子宮の出口である頸管が狭く、お産の準備が出来ていないことが多いです。その為、頸管を広げるための「子宮頸管熟化処置」を数日かけて行います。子宮のお産の準備ができたなら「子宮収縮促進剤」を点滴で投与して有効な陣痛が来るように対応します。これも数日かかることがあり、入院してから分娩まで1週間かかることもあります。

上記の処置によって帝王切開術の頻度が増えることはないと言われています。処置中は、胎児と子宮収縮の状況を確認するために分娩監視装置を併用し経過をみます。

詳細は外来担当医へご質問ください。。

桑名市総合医療センター 産婦人科診療部長